回覧

令和８年
浜野町内会報５２５号の大雨の記事は被害状況がよくわかる内容でした。

ホームページでも見られますので機会があったらご覧ください。



生浜地域誌

第７９号
2026.9.30
発行
NPO 法人
ちば・生浜
歴史調査会
電話
080-5387-
2592

令和８年　千葉豪雨被災された方々には心よりお見舞い申し上げます。

「今までに経験のなかった…」「レベル５の避難勧告…」「命の助かる行動をとってください…」の連呼の中、確かに未曽有の被害状況でした。

生浜地域のハザードマップや防災組織がどの程度効果があったのか、今後の為にも現状把握はしておきましょう。

自然災害が連発している現代社会では自治活動も大きな力となります。助け合いの心が大切になります。
また、地域の情報や出来事など回覧板という極めてアナログな方法ですがいい方法と実感した次第です。

「生浜地域」は自然発生したムラから積み重ねた歴史ある『まち』なのです

人工的な、意図的な『まち』は合理的で便利です。近年それらの『まち』をニュータウンと称して『まちづくり』をしてきました。　ここ生浜地域の『まち』はニュータウンとしてつくられたわけではなく、ムラから始まった歴史のある地域なのです。勿論この区域の一角には造成され住宅地化が進んだところもあります。住民も増えています。

『まち』がどのように変わっていくのが良いのか…
それを決めていくのはその『まち』に住む住民ではないでしょうか。　住民が希望する【良し】とする変化、は、”いつ”　“誰が”　“どうやる”のでしょう。
それは【自治力】です。「自治会の総意や希望・願い・要求」が変化を導いていく第一歩になるのが望ましいのです。地域の生活の背景(原動力)には「自治力が不可欠」ではないでしょうか。

『まち』『村』は時の流れの中で様々な出来事や変化が繰り返されて来ております。その昔の出来事や由来・伝承を知る事で、現在の状況を素直に受け入れたり、面白く思ったりすることで、住んでいる『まち』を大切に思う気持ちにもなることでしょう。

郷土の昔に眼（まなざし）を向けてみようではありませんか。　（白井孝・記）

【活動報告】

バルーンアート講座を開催



去る９月 12 日（土）、浜野会館にて「バルーンアート講座」を開催しました。
当会ではこれまで「歴史講座」「歴史散歩」「布ぞうりづくり」「干支の折り紙」などを企画してきましたが、バルーンアートは初の試みです。



今回は対象を高校生以上、定員２０名で募集を開始したものの、当初は応募が集まるか懸念されました。
しかし当日は、平均年齢７０歳を超えるお元気なシニアを中心に１７名のみなさまにご参加いただくことができました。
外部講師の丁寧な指導のもと、まずは基本動作を練習。その後、「ジャンプねずみ」「イヌ」「眠りネコ」「オウム」の４作品に挑戦しました。



完成までのペースに個人差はあったものの、参加者のみなさんは休憩も忘れて２時間しっかりとバルーンと向き合っていらっしゃいました。あっという間の楽しい時間となり、最後は「本当に楽しかった！」と笑みがこぼれる中、大切に作品を袋に詰めてお持ち帰りいただきました。

（うちかわ・記）

・・・・・・・・・・・・・・・・・・

歴史散歩　参加者募集

南生実を歩く

日　時：１１月７日土曜日８：４５～１２：００

集合解散：千葉市埋蔵文化財調査センター
（南生実町 1210 番地）

共　催：生浜地域の「青少年育成委員会」との併催行事です。

南生実を歩いて見ませんか。
●大百池　●八劔神社　●市指定無形文化財「神楽」　その舞の一部を鑑賞します

参加費無料ですが参加申し込みは必要です。
・道案内人は本会会員で、資料は当日配布します。
・参加希望者は右記のところまでご連絡ください。
・小雨決行。中止の場合は事前に連絡します。

申込はこちら
NPO 法人ちば・生浜歴史調査会
（旧生浜町役場庁舎管理受託者）
電話　043－265－8816（火・木・土曜日 9:30～16:30）

上記日時以外は、080－5387－2592へ（伝言・ショートメール可）
または
旧生浜町役場庁舎まで千葉市中央区浜野町1290－3（火・木・土 9:00～16:30 開館）

★申込締切　１０/３１土曜日

千葉大学附属中学校の生徒さんが見学に来館

九月十六日午後小雨の中、千葉大附属中学校の生徒八名、教育実習生四名、教員一名の方々が「総合的な学習の授業」として訪れました。

目的は文化財について学習しており、「地域に点在する文化財はどのように守られているか」について調査しながら学習しており、本館の現状を学びに来たということでした。

はじめに、本会が掲示してある資料や展示してある農具、漁具、生活用具などの説明や海苔養殖と生産の仕方を、ＤＶＤを観ながら当時の様子を伝えました。次に、本会が日々取り組んでいることについて、「保存していく活動」と「活用していくための活動」に分けて具体的に説明しました。

最期に、地域から寄せられた用具を大切な文化財として整理し、『図録』の作成に取り組んでいること、『生浜地域誌』を発行して、生浜の歴史の紹介をしていること、講座や学習会（古文書学習会）や地域の歴史散策をして郷土史を広めていること等、地域ぐるみで文化財を守り、活かしていくように努めていることについて話しました。皆さんは真剣に館内の様子を見たり、説明を聞いたりしていました。

ある生徒は「じいちゃん、ばあちゃんの家で見たことがある。懐かしかった。」また他の生徒は「初めてみた。珍しく思った。」と話していました。実習生は「見学に来た甲斐があった。勉強になった。」と語ってくれました。帰りに、代表の生徒が「見学だけではなく、資料をいただいて説明を聞き、皆さんの取り組んでいることや活動の様子がよくわかりました。」と感想を述べて帰校しました。

（萩原・菅崎　記）

南生実の歴史



江戸時代の南生実村

（本会会員　今井公子先生提供）

南生実村・北生実村・生実郷（大巌寺周辺）は、もとは一郷で小弓郷だったと思われる。

≪天正１８年（1590）の大巌寺領には「生実之内（４１％）・森之内（２７％）千葉之内（２２％）」などとあり、７月２８日付けの家康の寺領安堵状には、「下総国生実大巌寺」とあり、「生実」の漢字で記載されている。》翌年には１０８石余りの検地結果が知られるが、朱印状は百石である。小弓＝生実・・・「生実」は諸家譜に「おいみ」とルビ）

幕府代官が生実藩へ引き渡した寛永５年の「下総国小弓領郷帳」には、「北小弓之郷、南小弓之郷」と村名が記載されていて、すでに江戸時代の初めには北と南に分村していた。

八劔神社の祭礼

（本会会員　今井公子先生提供）

毎年７月 27 日におこなわれる八劔神社の例大祭は、神輿巡行と神楽奉納が隔年執行され、今年は神輿巡行の年である。なお、祭礼の連縄作りが行われ、拝殿や大鳥居に立派な大注連縄が掛けられ、神輿の御旅所の結

２日前には境内で青刈りの稲藁を使って注

界も青々とした注連縄が張られる。

【神楽（かぐら）】　享保元年（1716）12月22日社殿再建遷宮式の時、上総一の宮玉前神社の社人６人が２日間にわたり３６座を執行したという。

現在は１２座が継承されている。　昭和３８年３月３１日千葉市指定無形民俗文化財

神明奉清　湯笹露祓　神子一組　猿田六合堅固　天孤乱舞
神剣御調　翁鎮悪神　神手誓約　千箭発弓　保食神種蒔
事代主海上楽　神功皇后名護屋之陣　稲田姫命素戔鳴尊八岐大蛇退治

御囃子は　大太鼓１人　小拍子１人　大拍子１人　篠笛２人
持ち物に　御幣　鈴　榊　笹　刀　弓矢など
面は　男神　女神　天狗　翁　媼　狐　ひょっとこ　龍など

生浜歴史講座のご案内

日　時　令和8年10月24日（土）
10:00～12:00

会　場　浜野会館
（中央区浜野町1242）

「見えて来たムラの様子」
…南生実町の発掘調査結果…

講　師　小林嵩先生
（千葉市埋蔵文化財調査センター）

「南生実の歴史について」

講　師　今井公子先生（本会会員）

定　員　先着40名

★申込締切　１０/１７土曜日

行事参加申し込み方法・お問い合わせは
NPO法人ちば・生浜歴史調査会　まで

電話連絡　火、木、土曜日（9:30~16:00）
043－265－8816
携帯:080-5387-2592
伝言・ショートメール可。

南生実の八劔神社とは

…「千葉市の神社」でネット検索可能
…中央区南生実町880番地

●日本武尊（やまとたけるのみこと）がこの地の乱を治め、八劔神社が建てられたという。これより南を上総国、北を下総国とし、ここに天照大神（あまてらすおおみかみ）を祀り陸奥へ進軍したので、東国征夷鎮護国家の神として八劔神社が建てられたという。

●「神宮吉野氏系譜」には、古代に麻の生産でこの地を支配した豪族「麻績連（おみのむらじ）」と縁結びしたとあり、大百池（おうどいけ）は麻を浸した池とも言われている。

●寛弘年中（1004～1012年）源頼光が上総介（かずさのすけ…役職名）に任ぜられ赴任の折、大弓を奉納して武運を祈り地名が大弓となったという伝説もあり、麻績―大弓―小弓―生実という地名変遷が推定される。

●神楽舞（かぐらまい）は享保元年（１７１６年）社殿再建遷宮に奉納され恒例となり隔年７月２７日夕方から行われる。千葉市指定無形文化財。

令和８年度　賛 助 会 員 紹 介

ご継続・ご入会ありがとうございます。この浄財は　主に民具類の修理・保存収納のために使わせていただきます。賛助会員には地域誌を一年分とカレンダーを贈呈致します。

（北生実）
本満寺（河野時巧）様
（塩田）
石橋真紀子様